

## イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果について

令和2（2020）年11月にイネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカの越冬世代幼虫を採取し、保毒虫率と生息密度を調査しました。イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は県平均 5.0%でした。防除が必要とされる保毒虫率が10%を超える地点が1地点見られましたが、全体的に低く推移しています（表1）。また、越冬世代幼虫の生息密度は県平均 22.4 頭/10 m<sup>2</sup>（平年比 33.5%）と平年よりやや少ない発生でした（図1）。

ヒメトビウンカは、再生稲やイネ科雑草に寄生し越冬します。そのため、再生稲発生ほ場の耕起や畦畔の雑草管理を行うことが、次年度のイネ縞葉枯病に対する有効な防除対策となります。再生稲を確実にすき込むため、丁寧な作業（2回耕起等）を行い、ヒメトビウンカの越冬場所を無くすことにより、次年度の発病を抑えましょう。

（イネ縞葉枯病の防除対策の詳細については、[病害虫防除対策のポイント No. 17](#) を当センターホームページに掲載中。）

表1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

(単位:%)

年度		H30	R元	R2
地点名		2018	2019	2020
県北部	大田原市戸野内	1.0	5.3	—
	大田原市蛭畑	1.0	3.9	2.5 (81)
	大田原市親園	4.2	3.3	1.0 (96)
	那須烏山市滝田	3.1	4.3	5.0 (60)
	さくら市蒲須坂	3.1	8.7	3.2 (63)
	高根沢町花岡	6.3	4.3	1.0 (96)
	県中部	真岡市青田	6.3	16.7
宇都宮市横山	9.4	7.1	2.1 (96)	
宇都宮市雀宮	9.8	6.3	7.3 (96)	
上三川町上三川	13.5	6.5	9.4 (96)	
鹿沼市酒野谷	4.2	0.0	3.1 (96)	
県南部	下野市絹板	13.5	13.3	—
	下野市小金井	5.2	9.4	6.3 (96)
	小山市小薬	8.3	4.2	11.5 (61)
	小山市石ノ上	10.4	13.8	6.3 (96)
	壬生町助谷	4.2	5.4	7.3 (96)
	栃木市惣社	5.2	4.2	4.3 (93)
	栃木市大平町真弓	1.0	9.4	5.2 (96)
	栃木市藤岡町富吉	5.4	0.0	3.7 (81)
	佐野市堀米	10.4	12.5	4.2 (96)
	足利市上洗垂	3.1	3.1	4.2 (96)
県北部平均	3.1	5.0	2.5	
県中部平均	8.6	7.3	5.8	
県南部平均	6.7	7.5	5.9	
県平均	6.1	6.7	5.0	

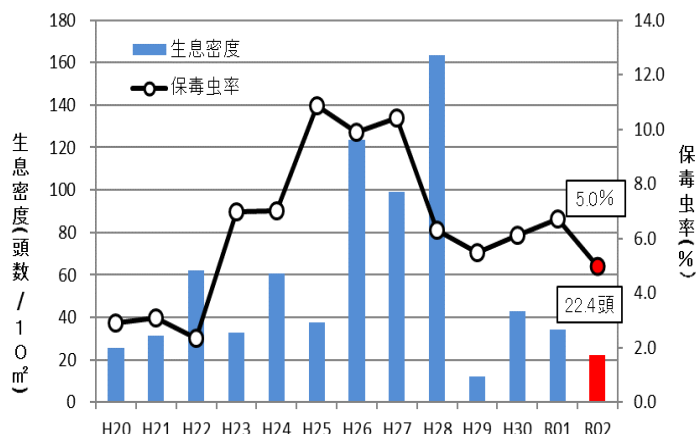


図1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び生息密度の推移



写真1 イネ科雑草に寄生するヒメトビウンカ幼虫



写真2 再生稲で発病した縞葉枯病

注：検定サンプルは、令和2(2020)年11月中旬～下旬に、水田畦畔や休耕田のイネ科雑草等から採取したヒメトビウンカ越冬世代幼虫

( )は検定頭数(頭)

検定方法：DAS-ELISA法

検定数：60～96頭/地点

R2年より地点数を見直し、19地点で算出

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。